

式 辞

ただいま、皆さんに卒業証書をお渡ししました。まずは、卒業する皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

「皆さん、卒業おめでとうございます」

そして、お子さんをこれまで育ててこられた保護者の皆様をはじめご来場の皆様、本日は誠におめでとうございます。さまざまな困難を乗り越えて、立派に成長された姿を皆様とともに喜びたいと思います。

また、ご来賓の皆様には、ご多用の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本校のことをいつもお心にかけていただき感謝に堪えません。職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

さて、皆さんは『ある覚悟』を持って本校に入学したのではないかと思います。それは、夜間定時制高校は夕方から授業が始まるということです。この時間帯に学校に来ること自体、努力しないとできないことです。時には生活が乱れ、疲れがたまってしまうこと、また仕事やアルバイトをしている人は、仕事が入りまくるかたまり悩むことがあります、つい学校を休みたくなることもあったと思います。おそらく、そんな時は、「自分で決めたことだから」と歯を食いしばって登校したのではないかと思います。今日の卒業を機に、是非「自分で決めたこと」は最後までしっかりできるんだという自信を持ってください。

ところで、今日は高校の卒業式ですが、これまで皆さんは小学校や中学校でも卒業式を経験していると思います。では、今日の卒業は、いったい何を卒業していくのだと思いますか。もちろん、今お渡しした卒業証書に書いてあるとおり、本校の教育課程を修了した、つまり学校で勉強した科目の単位を取った

わけです。3年間あるいは4年間で学んだことは、社会に出ても役に立つものが多いと思います。これからの夢実現や目標達成に生かしてほしいと思います。

でも、それだけでしょうか。

私は、皆さんの今回の「卒業」は、人生の土台づくりからの「卒業」かな、と思います。これから社会に出て、つらく苦しいことにぶつかった時に、横浜翠嵐高校で作りに上げた人生の「土台」を踏み台にして大きくはばたいてください。

今、皆さんを取り巻く社会環境は決して「良い」とは言えません。新しい生活を送る中で、いろいろつまづくこともあると思います。そんな時に絶対に「やけ」にならないで、横浜翠嵐高校でつくった「土台」を思い出してください。自信を持って新しい世界に勇気を持って踏み込んで行ってください。心より応援しています。

皆さんのこれからの長い人生には、多くの分岐点があります。その一つひとつの分岐点、どちらを選ぶかは自分自身で決めなければなりません。そして選んだ以上は精一杯生き抜いてください。その人生を支える土台は「横浜翠嵐高校での生活」です。

今日で、皆さんともお別れとなりますが、本日の私たちの幸せな気持ちはまぎれもなく皆さんのおかげです。この感謝の気持ちを、卒業生の皆さん一人ひとりに差し上げたいと思います。

卒業おめでとう、そしてありがとうございました。元気に翔び立ってください。

平成29年3月3日 神奈川県立横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到